

## 『天王寺村区劃図』

大正 13 年 倉持篤彌 61cm×55cm 関西大学図書館蔵

大正 15 年の『大阪南部地図』に比べ、大阪市編入前の天王寺村のみを対象としている。通、筋、町の名前が書かれているが、町名は省かれている場合がある。地番は主要箇所のみ、かわりに村内 30 区の区域と番号が詳細に記されている。この地図の発行者の倉持は村会議員で、大阪市編入に際しての村政報告を兼ねて、この私家版地図を印刷・発行したと思われる。「凡例」には、しっかりと「倉持宅」とある。倉持氏のご一族が、まだお住まいになっているかもしれない。

この地図は、地図部分が当時の天王寺村の空間的な状況を伝えるだけではなく、文字部分が天王寺村の目には見えない姿を伝えてくれる。

裏面は「東成郡天王寺村勢報告」となっている。地図も当時の天王寺村区画を今に残す貴重な資料だが、この報告も編入直前の天王寺村の様子を伝える価値ある記録である。

裏面の報告は、土地、人口、戸数、役場吏員名、村会議員名、区長と区長代理者名、「区長並区長代理者設置規定」、村立小学校（合計 6 校）の学校別の児童数・教員名、財政状況の具体的数字が記録される。加えて、倉持の「村政報告ニ就テ」があり、続いて「土地」、「人口」、「教育」、「道路」、「衛」（衛生状況）、「公設市場」、「行政財政整理ト公民道徳」、「葬儀所移転」、「市編入ニ就テ」が個別に報告され、最後に「市編入ニ就テノ私」で倉持の意見が論じられる。「教育」、「交通」、「上水道」、「下水道」、「汚物処理」、「納税」、「公設市場」、「電話」、「警備」、「火葬」、「伝染病院」、「各種団体ノ補助」、「土地価格」と詳細に陳述し、大局の論として「東西両郡全般ノ市編入ニ就テ天王寺村民ノ利害」、「新区制ニ就テ」、「編入ニ対スル付帯条件ニ就テ」、「結論」を添える。結論は、適切な条件を付けて市編入を可としたい、とは述べている。

歴史的には「大阪市に編入した」となるが、その背後にはさまざまな思いがあるわけである。地図は立体的な都市空間を平面に記録するだけではなく、このような表には出てこない事情を記録している場合もある。地図部分が人の記憶を蘇らせ、人と人と、人と土地を繋げる役割を果たすだけではなく、このような文字部分や、あるいは添えられた絵が同じような役割を果たすこともある。そう考えると、「地図」の「地図」部分だけ見ているのはもったいない、ということになる。

